

- 1 **くがにくとぅば[黄金言葉] vol.230**
琉球ホテル&リゾート 名城ビーチ
総支配人 佐藤 健人
- 6 **地域リレーションシップ情報 222**
【その1】半導体関連企業が集積・発展する「シリコン・ビーチ」を目指して
【その2】沖縄観光、地産地消で盛り上がっています!
果報庭(かふうなあ)
- 9 **おきぎんマーケティングレポート**
第91回おきぎん企業動向調査
(2023年1～3月期) 調査結果
- 18 **けいざい風水**
- 20 **県内景況・確報**
2023年2月の県内景況
- 28 **国内景気動向**
- 30 **沖縄マーケティング情報**
①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数
②世界の中の沖縄(年次)
③グラフでみる沖縄経済
④数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)
- 50 **経済社会のできごと** (沖縄、国内・海外)
2023年3月



アセローラの日・5月12日

沖縄を代表するラグジュアリーリゾートを目指して

RYUKYU HOTEL & RESORT
NASHIRO BEACH

琉球ホテル&リゾート 名城ビーチ

総支配人 佐藤 健人



琉球ホテル&リゾート 名城ビーチは2022年7月に開業しました。全室西向きでサンセットが見られる造りや多彩なレストラン、大型MICEが開催可能な施設など様々な特徴を備えています。今回は同ホテルの総支配人である佐藤 健人氏に沖縄を代表するラグジュアリーリゾートを目指した取り組みや今後の沖縄観光などについてお話を伺ってまいりました。

コロナ禍での開業

2022年7月に開業したこの琉球ホテル&リゾート 名城ビーチの計画は2015年からスタートしました。当時まだ更地だったこの場所を訪れ、敷地も広くとても素晴らしいビーチで感銘を受けました。空港からのアクセスも良く、ここに最高のホテルを造れば、きっと国内外から多くの人に来てくれると感じたのがきっかけです。そこからスタートし、順調にプロジェクトを進めることができました。



工事期間中に新型コロナウイルスの流行などがありましたが計画通りにプロジェクトを進めることができました。新型コロナウイルスの流行は観光業に大きな打撃を与えましたが、前提として観光業はあらゆるリスクの影響を受ける業種です。今回の場合は疫病リスクですが、地政学リスクや自然災害リスク、経済リスク等々様々な影響を受けます。

また、ホテルの建物は50年以上持ちますので、長期的な視点を持って経営するように心がけています。

新型コロナウイルスの流行が観光業にとって一時的な打撃になったのは間違いありません。しかし、沖縄観光の魅力が失われたわけではありません。海は美しく、観光資源が劣化したわけでもありません。観光業が沖縄経済をこれからもけん引していくことは間違いのないと思っています。

「東洋一のホテル」を合言葉に

素晴らしいビーチ、広い敷地、空港からのアクセスの良さなど、この場所には非常に大きなポテンシャルがあります。ここに最高のホテルを造れば、お客様も喜び、沖縄県にもプラスになると考えています。「東洋一のホテルを創ろう」という合言葉を元にホテル創りを行っています。

この目標を達成するためにはハードとソフトの両方が充実している必要があります。

ホテルの魅力に欠かせないハードとソフト

当ホテルのハード面での特徴は、6種のプール、9種のレストランとバー、全室西向きの客室です。

プールやレストランは様々なタイプをご用意することで何度訪れても飽きが来ないように工夫しています。客室は、本来ホテルは廊下を真ん中において両サイドに部屋を配置する方が効率が良いのですが、全てのお客様に海の美しさをより感じていただけるように片廊下の全室オーシャンビューにしました。そして通常よりも大きなサイズのバルコニーを全室に造っています。



また、ソフト面もホテルにとっては極めて重要で、当ホテルでは特に食事にこだわっています。食材の調達、調理、盛り付けなどのプレゼンテーションまで「食」に関する全てのプロセスを磨いています。そのために当ホテルでは約100人の料理人を雇用しています。地元のお客様を中心に特にbuffet形式のランチは、大変ご好評いただいております。平日は100名、休日は200名を超えるお客様にお越しいただいております。県内トップクラスのランチを目指すべく、自信を持ってご提供しております。



そして、ホスピタリティがホテルにとって非常に重要な要素です。良いサービスを提供するためには、スタッフ自身が幸せでなくてはなりません。そのためには従業員が働きやすい環境が重要だと考え、その一環として近隣に144室の社員寮を造りました。また、その社員寮の一

階に企業主導型保育園を開設しました。ホテルはシフト制の業務になるので夜遅くや土日にも子どもたちを預かったり、病児保育をできるようにすることで従業員が安心して働くことができる環境を整備しています。

このようにハードとソフトの両面で最高のホテルを目指しています。

沖縄最大規模のMICEへの取り組み

沖縄県が観光立県としてさらに発展するためには、MICEが不可欠だと考えています。これまで、沖縄には300~500人規模の団体が会議・パーティー・宿泊をワンショットで行えるホテルがなく、大型の団体が他地域へ流れてしまうことも少なくありませんでした。当ホテルでは500人規模のコンベンションやミーティングをこのホテルだけで完結させることが可能です。大型MICE誘致という観点からも沖縄県に貢献できればと考えています。



沖縄観光の現状とこれから

冒頭にも触れましたが、コロナ禍を経ても沖縄の観光資源は劣化していないですし、日本の中でも圧倒的なポテンシャルを持っていると思います。

短期的にはインバウンドの回復が重要で、コロナ禍の期間中に完成した那覇空港の第二滑走路がフル稼働するまでになれば自ずと活気は戻ると思います。また、コロナ禍で抜けた外国人従業員にいかに早く戻って来てもらうかという点や資金繰りをどうするかなども今後は課題になってくると思います。

長期的には、沖縄観光の独自性をどう考える

かという点だと思えます。沖縄は日本で唯一無二のリゾート地で、自然も豊か、3時間で様々なエリアと繋がり、人もとても温かい。既に十分な独自の魅力を沖縄は持っていると思えます。



沖縄観光の独自性を活かすために

観光客の滞在日数や滞在時の消費額でハワイがベンチマークとされることも多いのですが、私は沖縄とハワイは大きく違うと思っています。ハワイの滞在日数、消費額が大きいのはハワイがどの地域からも非常に遠く、頻繁に行ける観光地ではないからです。どこから行っても8時間以上かかる場所で、一回の滞在日数は長くなりますし、それに伴い消費額も増えます。反面沖縄は、多くの地域から行きやすい位置にあります。そのため、単発の旅行での滞在日数や消費額を比較するよりも、短期の宿泊でもリピーター、沖縄のファンを増やして、トータルの滞在日数を増やすことが重要だと思っています。毎月ハワイに行く人はほとんどいませんが、毎月沖縄に来てくれる人は数多くいます。県外の方々が沖縄ファンになり、その方の人生に沖縄が寄り添い、彩ることができれば素晴らしいと思います。

観光地としての魅力を高めるには、コンテンツの豊富さも重要です。そのためには観光業界全体で観光客を飽きさせないための取り組みが必要です。当ホテルの場合は、バラエティー豊富なプールやレストランがそれに当たります。一度の滞在では全ての店と施設を楽しむことはできないので、「次沖縄に来たら琉球ホテルのあのレストランに行きたいな」と思っていただけのように取り組んでいます。また、一番リピーターになりやすいのは日本人観光客ですから、第一にどうすれば日本人観光客に喜んで

らえるかを考えたうえで外国人観光客へのサービスを考えています。既にリピーターになっていただいているお客様も多いのですが、何度来ても楽しんでいただけるホテルであるためにはホテルそのものが成長しなくてはならないと思いますし、同時にそこで働く人も成長しなくてはなりません。



観光立県としての発展のために

最後に、観光立国「日本」をけん引するのは間違いなく観光立県「沖縄」です。今後、沖縄を訪れる観光客はますます増えます。より多くの観光客をおもてなしするためには多くの人が必要になります。そのためには観光従事者の賃金水準の向上が重要です。コロナ禍以前よりも多くの観光客が訪れると想定すると人口150万人弱の沖縄県内の人財だけではとても足りず、県外、もしくは海外から働きに来てもらう必要があります。

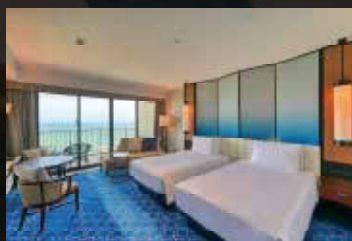
それでも、人財を充実させ、多くの観光客を迎え入れる準備ができれば沖縄観光のポテンシャルは無限大です。個人的には非常に未来は明るいと思っています。多くの観光客でにぎわう沖縄で多くのお客様に当ホテルを選んでいただけるようにこれからも成長を続けていく所存です。



“最上級に優雅”に過ごす。

沖縄本島南部にラグジュアリーリゾートが誕生。

ホテルに一歩足を踏み入ると広がる至高の空間。
はてしなく続く碧い海と、1.8 kmにわたる天然の白砂ビーチが、
優雅なリゾートステイの始まりを告げます。



 **RYUKYU HOTEL & RESORT**
NASHIRO BEACH

琉球ホテル&リゾート 名城ビーチ
沖縄県糸満市名城 963 ☎098-997-5550 (代表)
<https://ryukyuhotel.premierhotel-group.com/>



「交通の要衝」南風原町

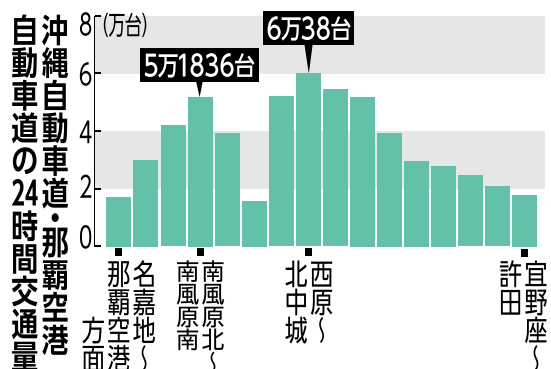
四つの高速道路出入口

琉球王朝時代の主要道路は、首里を中心に宿道（しゅくみち）と呼ばれ、北部方面への西宿（イリジユク）と東宿（アガリジユク）、南部方面への真和志宿（マワシジユク）と南風原宿（ハエバルジユク）などが整備されました。古くからサバニや山原船により発達した海路に対し、陸路は明治時代に馬車、大正時代に軽便鉄道やバスが登場するまでは徒歩が中心でした。

沖縄戦で破壊された道路は、米軍により那覇名護間の1号線などが軍事用に整備され、復帰後は一般交通のための国道58号線等へ整備されました。1975年の海洋博を機に高速道路も整備され、87年には沖縄自動車道として全面開通しています。現在は沖縄自動車道から分岐した那覇空港自動車道が名嘉地ICまで開通しており、今後5年程度で那覇空港までの全線開通を目指しています。このなかでも南風原南―南風原北IC間は沖縄自動車道の主要区間と同様1日5万台以上の交通量があります。少し意外かもしれませんが、那覇IC料金所は南風原町にあるため、今後開設予定の南風原JCT（南部東道路に接続）も合わせると、南風原町は四つの高速道路出入口を有する「交通の要衝」と言えそうです。

南風原町都市計画マスタープランでは、南風原北IC周辺は商業施設の集積、南風原南IC周辺は産業誘致等を検討しています。南風原町は沖縄県で唯一海に面していない市町村であり、津波などの災害リスクが小さくBCPの観点から産業立地として優位にあります。近年人口増加も続いており、「交通の要衝」として今後の発展が期待されます。

（沖縄銀行 南風原支店長 長嶺 初）



出所：国土交通省「2015年度 全国道路・街路交通情勢調査」より作成
(2023年1月29日掲載)

「0次予防」の取り組み

企業・行政が環境づくり

日本は超高齢社会（高齢者割合21%以上）に突入しています。今後も高齢化が進行する状況において、さまざまな分野で超高齢社会の対策が行われています。地域包括ケアシステムや行政と連携した介護福祉・生活支援サービス等もその一つです。今回は病気予防として注目されている「0次予防」の取り組みについてご紹介します。

従来、予防には病気にかからないための「一次予防」、早期発見・早期治療するための「二次予防」、そして再発・悪化防止や早期社会復帰を目指す「三次予防」がありますが、近年ではこれらに加え「0次予防」への取り組みが注目されています。

「0次予防」とは「健康づくりの行動を助けるための環境づくり」を意味し、本人が努力をしなくても知らず知らずのうちに健康を保（たも）てるような環境設計ができないかという考え方です。たとえば企業がオフィス内の喫煙所を撤去したり、行政が地域にウオーキングロードを設置したりするなどが分かりやすい事例です。たばこを吸える環境をなくすことで禁煙を促したり、身近で手軽なウオーキングを生活に取り入れれたりすることで健康づくりを助ける環境をつくっています。

私の職場がある宜野湾市では、事業者が他業種や行政、医療機関と連携しての勉強会の開催や、地域で取り組む「0次予防」についての議論を行うなど今後のさらなる取り組みが期待されています。私は家族・職場単位で「0次予防」の環境づくりを進めています。皆さんも病気予防について関心を持ち、できることから取り組んでみましょう！

（沖縄銀行 宜野湾・我如古支店長 仲本 大介）

0次予防から三次予防まで

0次予防	健康づくりの行動を助けるための環境づくり
1次予防	健康増進（健康づくり）
2次予防	早期発見・早期治療（特定健診・指導）
3次予防	再発・悪化防止（重症化予防）



(2023年2月5日掲載)

10周年を迎えた沖縄大交易会 県内事業者の積極的参加を

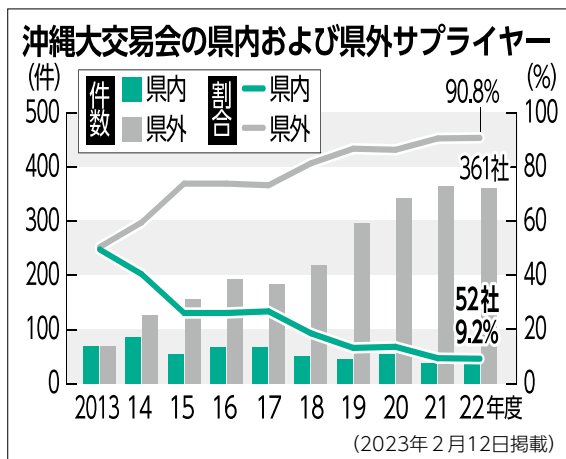
昨年11月24、25日の2日間、沖縄コンベンションセンターで行われた沖縄大交易会は3年ぶりのリアル開催となり、全国44都道府県から413社のサプライヤーと国内外248社のバイヤーが参加しました。コロナ禍でオンライン開催が続いていた影響もあってか、商談にも熱が入っているように感じました。会場内には大交易会の10年間の歩みを記した映像も放映されていました。以前に事務局へ出向していた経験から感慨深くなり、他の視察者が移動する中、2回も観てしまいました。

さて、食品商談会として2013年にスタートし、国内最大級といえる規模にまで拡大した大交易会ですが、県外事業者からの人気上がる一方で、県内事業者の参加割合は落ちてきています。大交易会の活性化は県の重点施策の一つでもある「国際物流拠点形成」にもつながることから、県内事業者の積極的な参加が期待されています。

参加バイヤーからも県産品を求める声が多く、オンラインやバイヤーと直接商談することにより、売り上げ増加のチャンスにもなります。私見ですが、バイヤーから高い評価を受けている事業者に共通する傾向として、経営者（実権者）自ら商談に参加しPRをしていることがあります。バイヤーも実権者と直接交渉することでスピーディーな商談ができています。

県経済発展のためにも多くの県内事業者を促し、地域金融機関として積極的にサポートして参りたいと考えています。まだ参加したことのない事業者さま、ぜひ一度ホームページをのぞいてみてはいかがでしょうか。

(沖縄銀行 新都心崇元寺支店長 譜久村 親)



東部海浜開発事業(潮乃森) 雇用創出に期待

私の職場がある沖縄市は、年々人口が増え続けている一方で県平均と比較して高い失業率が課題となっています。市面積の約35%を占める米軍基地等の存在によって新たな開発用地が不足している現状を踏まえ、沖縄市は雇用創出、街の活性化、高齢化の進展という課題解決のため、東部海浜開発事業(潮乃森(しおのもり))を中城湾港泡瀬地区で計画しています。「スポーツ」「健康・医療」「交流」をメインテーマとした開発に2018年から着手しています。

主な施設として、宿泊施設、商業施設、健康医療施設、栽培漁業施設、臨海商業施設、多目的広場、人工ビーチ、マリーナ等の計画があります。沖縄市は「スポーツコンベンションシティ宣言」をし、活気と共感に満ちたスポーツ交流のまちづくりをめざし、コザ運動公園や県総合運動公園、沖縄アリーナと連携した地域に根差したスポーツ活動に取り組んでいます。

東部海浜開発事業(潮乃森)で900メートルの人工ビーチを整備することにより、今まで沖縄市で行えなかった海水浴やビーチパーティー、ビーチスポーツやマリンスポーツが行えるようになります。これまで以上に県民・市民、観光客やスポーツ競技者などを集客することによって、スポーツによる健康づくりや市民の交流の場創出に加えて、新たな雇用創出による、沖縄市の完全失業率の改善が期待されています。

24年度から人工ビーチも部分使用開始予定となっています。県内最大級のロングビーチへ足を運び楽しんでみてはいかがでしょうか。

(沖縄銀行 泡瀬支店長 宮城 悟)

	沖縄市			沖縄県
	2010年	15	20	20
15歳以上人口	105,150	113,017	114,527	1,195,862
労働力人口	58,803	53,861	51,759	611,102
労働力率(%)	60.3%	60.0%	63.5%	63.6%
就業人口	50,271	49,997	48,643	577,419
完全失業者	8,532	3,864	3,116	33,683
完全失業率(%)	14.5%	7.2%	6.0%	5.5%

注) 割合の計算の際には、分母から不詳を除いている。出所: 国勢調査
2023年2月19日掲載